

平成23年12月定例会 自然再生・循環社会対策特別委員会

発 言 者	発 言 要 旨
井上（航）委員	<ol style="list-style-type: none"> 1 愛県債の発行状況と川の再生における活用状況はどうか。 2 川の再生を進めるに当たって、部局連携においてどのような工夫をして実施しているのか。 3 川の水質に関する評価の県民意識調査結果について、県民は見た目で判断したのか。水質や生物といった数字で判断したのか。 4 川の再生に関して、県外からの評価はどうか。全国に向け、どのように発信していくのか。 5 新たな川の再生事業「まるごと再生」では一つの川を上流から下流まで再生するということだが、例えば入間川への市町村提案は中流域の2市からのみである。本当の意味での「まるごと再生」といえるのか。また、市町村提案の募集期間は10月27日から11月22日まで、決定は来春3月下旬である。市町村は決定前に予算を確保する必要があり、スケジュール的に提案しづらかったのではないか。
水辺再生課長	<ol style="list-style-type: none"> 1 愛県債は、平成20年度から23年度まで毎年80億円発行した。その一部を利用して、水辺の再生事業に取り組んだ。 2 部局連携においては、例えば水質改善であれば、河川管理者が浚渫を行い、生活排水対策として下水道整備、さらに合併浄化槽への転換など、各部局が連携をすることによって取り組んでいる。 3 県政世論調査では、2年前と比べて、川に対する印象、愛着度などがどう変化したかを評価してもらった。川の水質の項目では、見た目の水のきれいさだけでなく、水辺にゴミが落ちていないか、地域活動の様子、景観の良さなど総合的に判断されるものである。 4 全国に向けては、現場完成披露会の開催時に記者発表などを行い、新聞やホームページを通して広く知らせている。また、これまでつくばエクスプレスの中吊り広告や、秋葉原のT×プラザでの広報活動を実施してきた。また、旧芝川はテレビ番組の「素敵な宇宙船地球号」でシリーズ化され高い評価を得た。 5 「まるごと再生」は、例えば川を含めて一つの市町村全域での面的な取組や、川の全延長の半分程度以上の取組などを想定している。8月と10月に市町村説明会を2回開催し、県内63市町村のうちの2市を除く市町村に説明会か個別で説明してきた。また、市町村の提案内容は、市町村の総合振興計画や都市計画マスタープランなどに位置付けられ、既に事業化している取組などが

自然再生・循環社会対策特別委員会（平成23年12月定例会）

発 言 者	発 言 要 旨
水辺再生課長	<p>多いと思われる。さらに、平成24年度は計画づくりが必要であり、初年度から一気に工事を進めるわけではないため、支障はないと考えている。</p>
井上（航）委員	<ol style="list-style-type: none"> 1 水質データや生き物の種類の数など、科学データに基づく指標を取り込めば、よりこの事業の成果が見えるのではないか。 2 他都県を巻き込むことも必要なのではないか。
水辺再生課長	<ol style="list-style-type: none"> 1 水質の指標では、県の環境基準の達成に向けて取り組んでいる。清流ルネッサンスⅡ(第二期水環境改善緊急行動計画)の河川などは独自の基準を設定し水質改善を行ってきた。生き物を指標にした取組もあるので、検討したい。 2 市町村提案による川の「まるごと再生」は、川の再生懇談会からは全国初の試みとして評価を受けている。埼玉から発信して、今後、他県へPRしていきたい。